

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 86

発行日 平成19年6月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111 (代)

CONTENTS

学長就任のあいさつ	1
学長退任のあいさつ	2
副学長就任のあいさつ	3
就任のあいさつ	4
新旧学習センター所長の紹介	7
平成18年度放送大学学位記授与式	8
平成19年度開設・改訂科目の紹介	11
学習センターだより	15
研究室だより	16
学習センターの移転について	17
学園ニュース	18
教務からのお知らせ	19

学長就任のあいさつ

石 弘光



2007年5月1日に前学長の丹保先生の後を引き継いで、大きな期待と不安の入り混じった心境で放送大学に赴任いたしました。というのも放送大学は、私がこれまでに熟知したような大学とは異なるからです。学生と教場や指導室で常時向き合い教育をする大学と異なり、テレビとラジオを媒体に遠隔教育をする放送大学の実態に慣れるまでにはしばらく時間がかかると思います。

私は1957年に学生として入学して以来、学長の職を辞するまで、一橋大学で48年間も過ごしてきました。最後の6年間は、学長として教育・研究活動とは離れ、学内行政に忙殺されました。折しも、国立大学法人化の動きが本格化した時期でもありました。国立大学協会副会長であったこともあり、賛否が渦巻く法人化への移行に際して多くの時間とエネルギーを費やしました。この経験が、おそらく放送大学でのこれからの仕事にも役に立つのではないかと考えています。国立大学法人化は一般社

会とは隔絶した中で、どちらかといえば自分の研究のみに関心をおき、教育や社会貢献に比較的無関心だった大学教師の考え方を大きく変えたという点で、成功したといえるでしょう。

2004年に法人化が実施に移された年の12月に、学長の任期を無事に終え一橋を後にしました。4ヶ月ほどまったくの自由を満喫した後で、中央大学総合政策学部で特任教授として再度、学生の教育に当たることになりました。教育の現場で若い学生諸君と接することが、どんなに素晴らしいかを再確認しました。また大学院博士課程で、社会人の院生諸君の博士論文作成の指導にもあたってきました。ゼミは毎週土曜日ですが、平日の勤務の疲れもみせず真剣に自分の学問に向き合う50歳代あるいは60歳を超えた人達との付き合いも、私にとって何よりの経験でした。

放送大学で学びたいと考えられる人達は、まったく自分の意思で入学され、自らの時間と労力を勉学に当てていられることでしょう。その動機も、人様々だと思います。学士号の修得を目指す人、一層の教養を身につけたい人、現在の職場でのスキルアップを図りたい人、長年の学術的な疑問に答えるべく学問の扉をたたいた人など、一人ひとりが異なる動機をお持ちだと思います。放送大学は、これらのさまざまな要求にこたえられる知的生産の場を提供しています。どれだけ生産的にこの場を利用し、所期の目標を達成できる

かは、学ぶ皆さん一人ひとりの努力にかかっているのです。

私の専門は経済学で、その分野の中でも財政学です。国の予算、税制、社会保障、公共投資、地方財政など、政府の諸活動を分析の対象にします。学問の性格上、これまで政府の審議会に参加することも多く、マスコミを通じての発言の機会もしばしば与えられました。また教育に関する審議会にも数多く参加し、日本の高等教育について議論してきました。このような経験は、放送大学の果たすべき役割、そのあり方そして今後の発展の方向などについて、自分なりに考えるのに役立ってくれるものと信じています。

放送大学で学ばれる人は、何よりも知的な創造活動が好きな方々でしょう。楽しく学んで、自分の生活の中に勉学を取り込んで欲しいものです。『論語』の冒頭に、「学んで時に之を習う。亦た説こばしからずや」という有名なことばがあります。これは学習の楽しさをいったものです。放送大学で、ぜひこのように学習の楽しさを味わってください。学長として、教職員と皆さんと力をあわせて、共にこのような環境を作りたいと念じています。

このためにもなるべく早い機会に、全国の学習センターを一つでも多く訪問し、そこで学生や教職員の皆さんと直接にお話したいと考えています。今後とも、よろしくお祈りします。

退任のあいさつ

前学長 丹保 憲仁



平成13年5月、蝦夷が島から江戸前の幕張にやってきて、もう6年がたってしまいました。この4月末には学長の任期を満了して、また古里の蝦夷が島へ帰ります。自ら求めて学ぶたくさんの学生さんの努力に励まされ、同窓会の皆様の暖かさに力づけられ、理事長・副学長をはじめとする教職員と助け合い、知恵の及ぶ限り力の続く限り懸命に働いたつもりですが、成果はうっすらと積もった初冬の初雪程度であり、前途はいまだ霧に包まれた薄明のようであります。しかしながら、私自身としては、OBになっても、皆さんと生涯にわたって学び続けるご縁を得た事を人生の大きな幸いと感じています。

私は前任の北海道大学総長に選出されたときに、この変転する時代に生涯に亘って学び続けるシステムと、しっかりとした学部教養教育を創成したいと考えていました。日本の近代大学としては最長の130年の歴史を持つ、研究指向型の巨大な北海道大学では任期中にその志を全うする事が出来ませんでした。大学院重点化研究大学への展開と国立大学法人化への準備にほとんどの精力を使うことになりました。その任期6年の終期に、放送大学に来ないかとのお誘いを受けたわけです。不完全燃焼していたことを全部やれそうな大学に呼んでいただけたのは幸いな事でした。

放送大学長としての最初の3年は、学部の全国化を仕上げ、大学

院修士課程を立ち上げる事が最大の仕事でした。麻生・渡辺（守）両副学長の力をいただいて、吉川前学長の計画した修士課程を確かなものとする事が出来ました。学年500人の定員は、指導教員にも学生募集にも容易でない負荷でしたが、努力の甲斐あって、今では1600人を超える修士を輩出した、確立された大学院になりました。続く中島（尚）副学長の努力で、准看護師の看護師への資格向上のプログラムが軌道に乗り、博士課程が設計されました。残念ながら、ここ3年ほどの予算削減と、デジタル化の投資などで、博士課程新設のスタートが切れなかった事に責任を感じております。

放送大学生みの親でもある井上前理事長ご退任の後に、気鋭の御手洗理事長が着任された学長任期後半の3年は、中島（尚）、柏倉、大橋（英）副学長と杉本図書館長ほかの教職員に助けられ、放送大学のこれからの20年の基礎を固める準備に全力を傾倒する時間となりました。これは今も続いており、次期の石弘光学長にバトンをお渡ししての、平成21年がシステム全面転換の開始目標年次になります。

学長補佐を始め多くの教員の具体の提言とご尽力を得て、平成21年度を開始年度として、放送大学の学部・大学院の教育課程とそれを運用するシステムが大きく進展するはずでした。各学習センターの教職員・学生さんに動きやすい大学運営を感じていただけたらと思っています。技術的には、新しい情報システム・メディア教育を適切に構築し、遠隔教育を双方向的に何処まで展開できるかが問われていると思います。その一方で、学生が所属している各地のセンターの機能・構造をどのように改善していくかが課題です。とりわけ、全国化以前の構造を20年以上ももちつづけている、南関東の巨大学習センターと他の学習センターの統一的な改善発展が課題としてあ

ります。同窓会との緊密な連携と共に、学習過程の支援を大学院修了者にお願ひできないかと思っまいました。放送大学にロイヤリティーを感じる同窓生・教職員OBのご支援をお願ひしたいと思っています。

学部の教育課程を、基礎・共通・専門・総合に範疇分けして、広い教養学を適切に学んでいく事を考えました。同時に、各大学・専門学校との間の連携の実を挙げるために、この講義の範疇化は役に立つと思います。また、学士を目指す以前の、または爾後に、科目履修生等として、求めるところを学ぶ方々のために、科目群履修認証制度（放送大学エキスパートシステム）を発足させることができました。日本の一般の大学は、フルタイムの学生を主対象とし、科目等履修生に対する学習システムが十分に出来ておりません。放送大学は何処からでも、何時でも、誰でも学ぶことを標榜しております。放送大学エキスパートシステムが更に充実していく事を期待したいと思っています。

放送大学が教育の基本に据える、「教養」の獲得、とりわけ変転する近代の終焉において「人間の立ち居振舞いの芯となる感性と倫理」はいかなる物であるかをこの大学で学びつづけていただきたいと思っています。加えて、それをどのように使うかの学びにも進んで下さい。これが逆順になるといささか難しい事がおきそうです。まだ、生育途上にある大学院システムの熟成を祈念すると共に、人類の未来のために現代人がsustainableな挙動をどう考えるかを学ぶ、通信制の生涯学習の、わが国最大の基幹的公開大学（Open University）として、ますます発展する事を祈ります。

6年間有難うございました。ご交誼いただいた、全ての方々に感謝し、退任のご挨拶と致します。

副学長就任のあいさつ



この5月より、副学長を仰せつかりました。石新学長を補佐して大学の運営に携っていきませんが、それに加えインターネットも担当ということで、その普及を進めていきたいと思っています。

放送大学は典型的な通信制大学ですから、放送と郵便による情報交換が基本となっています。しかし、インターネットを使うと、コ

インターネット活用と双方向的な教育を目指して

副学長 岡部 洋一

ストがほぼ無料であること、手紙ほど改まらなくアクセスできること、即時性が高いことなどから、より双方向的な教育環境が確保できるかと信じております。

特に、通常の大学の講義では、その場で直ちに質問ができる、あるいは最近では講義直後に先生とやり取りができるのですが、通信制ではそれが困難です。また、郵便では、他の人の行動が見えません。しかしインターネットでは電子掲示板などを利用することにより、他の人との情報共有も可能です。必要があればWeb会議システムを利用して、直に講義やゼミを

受けることもできます。

この一年、何人かの若い先生達と一緒に、学生の皆さんにとってより使い易いWebの改善、Webによる電子掲示板や教材の配布システムの改善、教材コンテンツの作成、事務システムの改修など、将来に向けていくつかの準備をしてまいりました。

システムの作成にはまだ時間がかかりますが、一日でも早く真の双方向的な教育環境を確保していきたいと思っています。また、利用の段階になれば、学生の皆さんにも積極的なご協力をお願いします。



平成13年4月に放送大学に着任し、宮城学習センターの所長として6年1ヶ月を仙台で過ごしてきました。私としては全く予期しなかったことですが、このたび、副学長を拝命しました。

放送大学での6年余は面接授業、放送教材あるいは特別講義などで日本での普及が遅れているマイクロスケール化学を紹介し、化学教

本学の教育の改善に向けて

副学長 荻野 博

育の改善に努めてきました（マイクロスケール化学の詳細に関しては放送大学研究年報23号、89 - 95 (2005) をご覧ください）。私の面接授業につきましてはお褒めの言葉もいただいたのですが（最上嘉暢氏、「私の勤めたい面接授業」、on air、No.81、1 (2006)）、2006年の夏のある出来事で考え直さざるを得なくなりました。

オーストリアのオーベンドラウフ教授からマイクロスケール化学のワークショップを行うので参加しませんかというお誘いをいただき、モーツアルト生誕250年に沸くザルツブルグにでかけました。

そして同教授の講義に対する準備の周到さと払う努力の大きさ、学生に対する大いなる配慮、講義や実験の面白さなどどれをとっても脱帽もの、大きな衝撃を受けました。最上氏に褒められて浮かれてはいらなかったのです。帰国後早速面接授業の内容を再点検し、改善を始めています。

2006年夏の私の経験は化学教育に限らず、本学の教育の改善にも同じように適用が可能はずです。既成の概念にとらわれず、本学の改善にこの経験を役立てたいと思っています。

前副学長の退任について

前副学長の柏倉教授は附属図書館長に、大橋教授は宮城学習センター所長に就任されました。

就任のあいさつ



天文学を志して大学院に入ってから40年、東京天文台・国立天文台を足場に、電波や赤外線、宇宙に漂う暗黒星雲や恒星・惑星の誕生を追いかけました。また、新しい宇宙を観測するため、野辺山の45m電波望遠鏡やハワイの8.2メートルすばる望遠鏡の建設など、観測のための装置開発を手がけてきました。

この間、私が追いかけてきたのは、第一に「私たちが住むこの宇宙・自然をより深く、より

宇宙と人間をむすぶ

自然の理解

総合文化プログラム環境システム科学群

教授 海部 宣男

詳しく識ること」であり、第二に「宇宙の中で生命の誕生に至った道筋に迫ること」であったと思います。人間が自然をどう認識していくか、ひいては科学の意味やその役割にも関心があり、『銀河から宇宙へ』『時間のけんきゅう』『宇宙マンガシリーズ』『宇宙の謎はどこまで解けたか』『宇宙をうたう』など、子供や一般向けにかなりの本も書いてきました。一般向けの講演も、毎年20回以上のペースで続けています。

放送大学は、野辺山時代に小尾先生の「宇宙の構造と進化」のお手伝いで電波天文学を担当して以来になります。科学の面白さを広く社会に発信できる興味深いシステムとして、関心

を抱いていました。今回縁あって放送大学「自然の理解」専攻のメンバーに加えていただきましたが、多くの学生さんや市民の方々に、自然と宇宙の不思議さ、面白さ、そして奥深さを伝えることが、まず私の目標です。また、技術文明の危うさが人類の存亡にもかかわる大きな問題として浮かび上がってきていることは、もはや無視することはできません。その視点を十分に持ちながら、この地球に生命・人間が存在するという意味、そして地球文明とはこの宇宙でどういう存在であるのかを、みなさんと一緒に考え、研究していきたいと思っています。



平成19年4月より放送大学に参りました。研究としては情報を専門としています。情報の教育にも意欲を持って取り組んできました。

現在、情報ほど需要ギャップあるいは認識ギャップの大きい分野はないと思います。世の中のかなりの部分が情報処理機械で動かされているらしいことは分かるものの、システムを作るための作業の複雑さが明らかでない結果、作られたものの価値

情けに報いる学問

自然の理解

総合文化プログラム環境システム科学群

教授 川合 慧

の認識が極めて不十分なので、情報関係の教育の重要性もあまり認識されていないことは、昨今の高等学校における普通教科「情報」の履修状況や、大学入試への導入率の異常な低さとして現れています。結果として、情報関連の人手不足、他国からの技術者の移入、さらには情報オンチの大量発生などが問題視されるようになりました。

情報は、他の学問と同じように、少数の基本原則を基礎とした学問なのですが、「考え方」や「方法論」と言った、手順の進め方や分析法の枠組みそのものも扱います。この結果が情報処理手順となり情報処理機械と

なり、社会に役立つ情報システムとして結実するのです。“読み”、“書き”、“算盤”と並置されるべきなのは、パソコンの使い方自体ではなく、それを利用して物を考えるやり方の学習なのです。

これまで主に大学・高等学校で情報の教育に携わってきました。放送大学はテレビ授業であれば視聴する人の数も多いので、情報についての正しい理解を得て頂けるように努力したいと思います。放送教材を制作するのはかなり大変ですが、メディアの特性を活かして、わかりやすく楽しい内容にするつもりです。



19世紀は様式で建築が語られる時代でした。20世紀に入り空間の時代になり、20世紀後半、特に60年代から環境の時代となりました。21世紀は地球環境の時代、システムデザインの時代として建築や都市が語られることになると思います。私は環境建築家として40年間活動し、環境デザイン領域における計画的な研究とその応用として、遊具、

環境デザインのすすめ

産業と技術 教授 仙田 満
政策経営プログラム

建築、造園の設計、都市デザイン、地域デザインを行ってきました。特にこどもの成育環境の研究とデザインは私の研究、設計実績の中核をなすものです。このたび20年間の国立大学での教授としての活動と、40年間の環境建築家としての活動を経て、今新たに放送大学で多くの方々に「環境デザインとは何か」ということを伝えられることは大きな喜びです。建築設計、環境設計という分野は大きな過渡期にあると言って良いでしょう。近代科学がより狭い領域に専門化していく中で、環境デザインはより広い領域との関係性

をどうつくるかということがテーマです。私は環境デザインとはすでにある物語を尊重するデザイン行動だと定義づけています。学問でも設計でも大事なことは覚えることではなく、考えることです。多くの案を考え、検討することが学問と設計の基礎基本です。

関係性を考えることが環境デザインなのです。21世紀の環境デザインは、さらにその領域を拡大します。皆さんと一緒に多くのことを考え、多くの案をつくり、多くのデザインを通して未来を明るくものとしましょう。



産業と技術専攻の秋光です。私は脳の情報処理のモデルについて研究を行っています。脳を理解するというと医学系の実験をイメージされる方も多いと思いますが、工学部出身で、工学の立場から脳の理解を目標に研究を行っています。

いくら実験環境が進歩したといっても、脳に関しては、まだ限られた情報しか得られませ

脳の理解を目指して

産業と技術 准教授 秋光 淳生
総合文化プログラム文化情報科学群

ん。そこで既に得られた実験結果をふまえ、工学的なモデルを立て、モデルの挙動と実際の脳から得られた観測結果を比較するという研究が必要になります。そうすることで、脳の機能を推定することも可能になります。このような立場から多くの研究者によって、様々な研究が行われ、多くの工学的な応用も生まれてきています。講義ではそういった研究をわかりやすく紹介したいと考えています。

そのなかで、私は、特に「脳において情報がどのように表現されているのか」ということをテーマに研究を行っています。

脳の中にはたくさんの神経細胞があり、電気的なパルスをやり取りすることで情報処理を行っています。そのやり取りのされるパルス列にどのように情報が表現されているのかということを理解することが研究のテーマということになります。

今後は、こういった研究を進めると同時に、全国の放送大学の学生がインターネットを利用することで、便利で安全な学びやすい環境を整備することにも尽力していきたいと考えております。よろしくお願いたします。



「超高齢社会とケア」を考える

生活と福祉

教授 高崎 絹子

総合文化プログラム環境システム科学群

私の専門は看護学ですが、これまで、特に老年看護の教育と研究に携わってきました。

ご存じのように日本は世界に誇る長寿国であり、最近の統計によりますと65歳以上の人口は

20%を超え、また、センチネリアンと呼ばれる100歳以上の高齢者も3万人に達し、超高齢社会に突入しております。こうした状況は、わが国の政治経済、科学・医療技術を含む生活環境のレベルの高さを示す証であり、大変喜ばしいことですが、一方ではあまりにも急激な高齢化による人口構成の歪みや保健医療福祉のケア体制づくりの遅れを招き、いわゆる「介護殺人」

や高齢者虐待など深刻な倫理的問題を生む結果となっております。私は、近年は認知症と高齢者虐待の関連に着目し、研究、実践活動に止まらず、高齢者虐待防止法の制定にもかかわりをもってまいりました。

今後も、患者や障害者・高齢者のCure（治療）とCare（ケア）のバランスのとれた社会の実現に貢献していきたいと考えております。



これからよろしくお願いたします

発達と教育

准教授 山口 義枝

臨床心理プログラム

はじめまして、山口と申します。専門は、臨床心理学です。臨床心理士として精神科クリニックやカウンセリングルームで、子どもから成人を対象とした心理療法をおこなってきました。臨床現場でわたしが考え続けてきたことは、自分が体験したことのないような不安感や恐

れなどの感覚、考え、感情をもつ相手の方に、どうすれば自然に共感が生じ、また理解がおこるようになるのかということでした。例えば「うれしい」というよく使う言葉でさえ、体中に活力がみなぎるようなうれしさから、しみじみとしたうれしさまで、伝えられる感覚は多種多様です。このため心理療法では言葉のうしろにある感覚や感情を感じとり、相手の方の伝えたい内容を正確に把握していくことは大変に難しいことです。わたしは臨床の現場で、困難に真

摯に向かいあう方々から、多くのことを学ばせていただきました。この経験を皆様と共有できるように努力したいと思っています。非常勤講師として面接授業をさせていただいていましたので、放送大学生の方々の質問の活発さと意欲の高さはよく知っています。わたしも皆様から刺激を受けて、これから一緒に新しい経験をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いたします。

次の先生が平成19年4月1日付で本学の専任教授に昇任されました。



人間の探究

教授 笠原 潔

総合文化プログラム文化情報科学群

専門分野

音楽学・芸術文化政策

今年度担当科目

- ・西洋音楽の諸問題（'05）
- ・音楽理論の基礎（'07）

新旧学習センター所長の紹介

本年3月に退任した所長並びに新任の所長を紹介します。香山壽夫前所長（東京文京）、徳丸吉彦前所長（東京足立）、野山嘉正前所長（東京多摩）、高尾将臣前所長（香川）は3月号で紹介しております。

<退任学習センター所長>



鈴木 基之 前東京世田谷SC所長
短い期間の楽しいセンター暮らしでした。学生の方々の力をどう生かすかが放送大学の鍵であると実感しました。



小谷 仲男 前富山SC所長
学ぶことを止めようにも止まらない。その魅力が放送大学にあります。私自身も学ぶことの多い4年間でした。



兎束 保之 前山梨SC所長
在職中さまざまなキャリアを持った大勢の学生さんとの交流がありました。この交流経験こそ私の財産です。



沖野 外輝夫 前長野SC所長
4年間ご支援ありがとうございました。放送大学が生涯教育の中心として発展することを期待しています。



梶見 和孝 前兵庫SC所長
7年間、学習意欲と熱意に満ちた多くの学生さんに出会え、貴重な経験でした。益々の発展をお祈りします。



石川 實 前奈良SC所長
奈良学習センターの移転完了から1年。学生の皆さんも喜んでいきます。やっと落ち着き、ほっとして退任します。



松村 智弘 前岡山SC所長
放送大学では、いろいろな意味で私自身が学ばせて頂き、楽しく過しました。更なる発展を願っています。



蔦川 正義 前佐賀SC所長
「自宅がキャンパス」の放送大学であっても、学生さんとの交流から多くのパワーをいただきました。感謝。



金子 弘二 前宮崎SC所長
所員その他の方々のご支援のおかげでつとめを果たせました。充実感に溢れたこの5年間は良い思い出となります。



中里 治男 前沖縄SC所長
放送大学に関われた4年間は、多くの社会人が真剣に学習に取り組んでいる事を知る機会に恵まれ有意義でした。

<新任学習センター所長>



秋鹿 研一
東京世田谷SC所長
専門分野：触媒・化学プロセス、環境保全



山田 伸志
山梨SC所長
専門分野：騒音制御



齋藤 清機
岡山SC所長
専門分野：有機合成化学



桂井 誠
東京文京SC所長
専門分野：電気電子工学、プラズマ工学



永井 寛之
長野SC所長
専門分野：磁性物理学



山崎 敏範
香川SC所長
専門分野：電子情報工学



岩永 雅也
東京足立SC所長
専門分野：社会学、社会調査



門脇 延行
滋賀SC所長
専門分野：経営学
18.10.1就任



小島 孝之
佐賀SC所長
専門分野：農学



新井 皓士
東京多摩SC所長
専門分野：独文学、文体統計学



瀧上 凱令
兵庫SC所長
専門分野：心理学



田村 智淳
宮崎SC所長
専門分野：インド大乘仏教



渡邊 裕司
富山SC所長
専門分野：薬物学



水上 戴子
奈良SC所長
専門分野：栄養生理学



比嘉 辰雄
沖縄SC所長
専門分野：海洋天然物化学

平成18年度 放送大学学位記授与式



平成19年3月24日、平成18年度学位記授与式が、NHKホールにおいて挙行されました。当日は、文部科学省、総務省、NHKなどから多数の来賓を迎え、学部卒業生と大学院修了生と同伴者をあわせて、およそ2,400名が出席いたしました。学歌演奏、学長告辞、池坊文部科学副大臣並びに菅総務大臣（代理：中田総務省大臣官房審議官）からの祝辞に引き続き、卒業生・修了生総代による答辞で閉式となりました。学長告辞の概要については次のとおりです。

学長告辞

放送大学長 丹保 憲仁

今日ここNHKホールにて、池坊保子文部科学副大臣ほかのご来賓のご臨席を得て、平成18年度の放送大学学士・修士の学位記授与式を行うことが出来ますことを欣快に存じます。

長年の努力が実り、平成18年度に放送大学の学士号を得ることになった方々は、5,305名であり、学問の道を更に深めて、修士の学位を獲得された方は453名です。

今日、学位を我が手にされた皆様の長年の御努力に対して、心からなる敬意と祝意を表します。また、皆様の学習を長年にわたり支

え、励まし、今日の佳き日を可能にして下さったご家族、ご友人の皆様にも御慶びを申し上げます。

放送大学は平成元年に、皇太子殿下のご臨席を得て、最初の学士544名を世に送って以来、今日までに、総計45,900人の学士と1,600名の修士を輩出してきました。放送大学は、15歳の少年から、90歳代の超熟年に至る10万人に及ぶ巨大な数の、様々な資質と経歴を持った学生さんが、日本全土の街々・津々浦々で真摯に学び続ける、名実ともに全国民のための、通信制のわが国最大の中核的生涯教育大学です。全国にある放送大学学習センターで今年度行われた3,300回を越える面接授業では、真摯な学習が熱心に展開され、私語も無く全国の大学の模範ともな

りうるすばらしい教室風景でした。

我々は今、21世紀の始まるところで、世界の様々な混迷と向き合って生きています。過ぎ去った20世紀は人類の数と経済活動が歴史上かつてない速さで拡大した世紀でありました。大成長の反面の現象として、幾度もの大戦を経験し



た騒乱の世紀でもありました。21世紀は、人類の大膨張の末に地球が満杯になる予感を持って始まった世紀であります。人間の数と経済活動の急拡大によって、資源の枯渇、廃棄物の集積が地球の許容量を越え、一つしかない我々の星が相対的に急速に狭くなりつつあると感じる人が先進国の中に増えつつあります。発展途上国といわれる国々は、いま尚続く急速な人口と経済成長の担い手であり、成長の中に生活の向上と安定を見ようとしております。我々がその只中にある21世紀の初頭は、人それぞれがアクセルとブレーキを共に踏むという、混乱の時代であるように思います。もしかしたら、20世紀とまったく異なる形の世界大戦のさなかに我々はいるのかも知れません。

このような時代には、自分の立位置をしっかりと見定めたいと、人の意見を聞き、自らの踏み出し方を決めなければならないと思います。精粗様々な情報は参考になりますが、自らの立位置をより確かにしつつ、世に満ち溢れる情報を相対化し、ときには無視する事が、普通に生きていくために不可欠な努力であろうとおもいます。

自己の立位置も、時と共に変化します。近代がまっしぐらに成長していた20世紀では、一度専門をきちんと学べばその応用として人生を設計できました。アクセルとブレーキを同時に踏んでいるような、そして、急速に変転し混迷を深めつつある21世紀初頭では、継続的にことを学び続ける必要があります。生涯教育が高等教育の中で重要性を加速度的に増してきつつある所以です。しかも、その土台として、人類が連綿と蓄積してきた広く深い事柄の少ない人類の知識と知恵の基本部分についての、多面的な基礎的学習がその根本に無ければなりません。見か

けだけではない、教養の絶えざる自得が求められる所以です。応用動作だけでこの変転する世紀をまともに生きていけるとは思えません。

最後は自己の判断でことを決めなければなりません、せいぜい数十年に過ぎない個体経験と、DNAにかすかに残っている個体情報だけで安定的にことに処していけるとは思えません。数千年に亘り人類が取捨選択しつつ蓄積し続けてきた、文化と伝統を、個々人のあるいは国家・社会の必要に応じて学び活用しなければなりません。学ぶことは、必要をとり不要を諦める行為です。知識の習得量をひたすら増やすことが学習の目標であるはずがありません。指数関数的に拡大膨張する個々の情報を出来るだけ無視するのが、本当に必要なものを探し出すための基本動作の第一段であるようにも思えます。

学ぶことに卒業はありません。今日の学位記の授与は誠にお目出度くうれしい事ですが、さらに進んで生涯学習の段階区切りが一つ付いて、また次が始まる日と考えていただきたく思います。英語で卒業式を“Commencement Day”「始まりの日」という事をご存知と思います。

私が学び育った北海道大学の先輩で、旧制第一高等学校長（今の東京大学教養学部の前身）をつとめ東京女子大学を創立した、新渡戸稲造先生の“Haste Not, Rest Not”「急ぐな、されど休むな」という遺筆を、小生が北海道大学総長の時代にさる方からいただきました。まさに、この言葉は、競争無用の生涯学習、国民のための基本学習の展開を旨とするこの放送大学の学びの本質であろうと思います。

卒業生・修了生の皆様のご健勝、学問へのご精進の継続を祈って学長告辞といたします。



池坊文部科学副大臣



中田総務省大臣官房審議官



大学院修了生総代 細井信司さん



卒業生総代 佐田富美子さん

生活と福祉 北村雅子
 定年を前に手にした放大的パンフレットを見て、とびついた。家庭の事情もあって、無理なく学びたいと5科目ずつ登録し、確実にクリアしていった。面接で生の授業を受けられた事に感動した。5年間毎日充実して過ごせた。

生活と福祉 長屋由記枝
 卒業研究をとったことで、教授やゼミで多くのすばらしい人々と交流できました。研究の苦しさとおもしろさ、そして充実感を得ることができました。幕張の放送大学へも何回も行きました。後輩の皆様、ぜひ卒業研究を！

発達と教育 青山弥生
 産業カウンセラーの資格を取得し、勉強を更に進めたくて入学しました。放送授業はもちろんですが、面接授業が素晴らしく、尊敬できる先生に何人も出会えました。再入学し、興味ある科目を受講し続けます。

発達と教育 今城国雄
 障害児と共に歩んでいます。放大的の学習が大いに役立っています。きょうの感動を明日から養育に生かします。先生、職員の方々有難うございました。放送大学の発展を祈ります。

発達と教育 吉田泰代
 家族の理解が得られず、負の協力でした。しかし、そのおかげで、年月はかかりましたが、卒業できました。反対の声もエールになりました。後輩の方々も、すべてをエールと思い、前向きに勉強し続けて下さい。

社会と経済 石井アヤ子
 家族と職場の人達の協力を得て、今日の卒業を迎えられ、とてもうれしいです。在学中の苦しさも忘れ、継続入学をします。今度

は「人間の探求」です。どんな授業が待っているのか、今から楽しみです。

社会と経済 山口照雄
 九州から卒業式に参加した。喜寿を既に過ぎた老学徒です。草の根の地域自治活動に従事しながら、オンエアで学んだ事が大変役立っております。学習センターの最終試験に若い女性が多かった事に、これからの日本の社会の健全さを見ました。

産業と技術 小林建蔵
 卒業研究の単位を必須科目にして欲しい。この学習を予定した直前に卒業単位が揃ってしまい、学校を追い出される破目になり、残念です。卒業のバーが高くなるかもしれないが、必須が妥当かと思えます。

産業と技術 城山義見
 産業と技術を人間的、社会的側面から勉強出来て、非常によかった。また他の専攻も幅広く学習出来て、視野が広く持ち、深く考える習慣が身についたと思う。生涯学習、生涯現役で、残りの人生を有意義に過したいと思っている。

人間の探求 齋藤雅美
 長い道のりでした。'91年に入学して16年、卒業したいという一念で、ここまできました。入学もない頃、姪が骨髄移植を必要とする難病に患い、骨髄バンク運動に疾走しつつの16年。姪の移植実現と私の卒業、感慨深い春です。

人間の探求 森 康真
 勤務を続けながらの勉強は大変でした。中でも面接授業はすばらしいものがありました。2日間、一度も腰かけることなく、熱意をもって語って下さった40代の先生の印象は、生涯忘れることはないでしょう。

自然の理解 木下淳一
 昔々大学受験に失敗し、やむなく就職しました。この度、定年を前にしてようやく教養学士になりました。長年の思いを遂げることができて、とてもうれしく思っています。放送大学は科目や授業形態が多様で、よかったと思います。

自然の理解 中村真佐樹
 興味のおもむくままに学習して、あっという間の5年間でした。放送大学は、あることを極めようとしたり、幅広く学んだり、スペクトルは広いのです。自分が学びたいことに集中して学びましょう。

総合文化（文化情報）除村広人
 私の高校は公立の低辺校。4年制への進学率も低い。社会に出て生活することを学ぶ必要性を感じた。学部も放送大学。そして今度は放送大学院を修了。放送大学がなければ私は大学教育を受けられただろうか。

総合文化（環境システム）山中利夫
 高校で情報の授業が始まり、少しでも知識を増やそうと始めました。カリキュラム、教科書を自分なりにまとめる事ができました。何度となく、くじけそうになったとき、担当の先生や妻の励ましを受けて、修了できました。ありがとうございました。

政策経営 家田典和
 修士論文のフィールドデータが、当初予想したものとは大幅に違って、11月頃には論文提出を断念しようかとも思いました。しかし、ゼミのメーリングリストで仲間や先輩からの励ましの言葉をいただき、完成させる事ができました。

平成18年度教養学部卒業生数

	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探求	自然の理解	計
18年度1学期	668名	746名	194名	161名	292名	107名	2,168名
18年度2学期	977名	1,019名	310名	227名	440名	164名	3,137名
計	1,645名	1,765名	504名	388名	732名	271名	5,305名

平成18年度文化科学研究科修了者数

	総合文化		政策経営	教育開発	臨床心理	計
	文化情報	環境システム				
18年度1学期	4名	5名	3名	0名	0名	12名
18年度2学期	122名	106名	113名	60名	40名	441名
計	126名	111名	116名	60名	40名	453名

生活とリスク（'07）

生活と福祉 准教授 奈良 由美子

わたしたち人間の生活には様々なリスクが潜在しています。リスクとは、人間の生命や健康・資産ならびにその環境に望ましくない結果をもたらす可能性であり、生活の安全・安心を脅かすものです。生活の中のリスクについて理解し対処することは、生活を営むうえで優先順位の高い課題といえるでしょう。この科目では、リスクの概念と実態を整理したうえで、リスクの悪影響を小さくするための対処方法や生活者および社会のあり方について考えていきます。

授業のなかでは、自然災害、犯罪、交通事故、化学物質、食品安

全、居住空間とリスク、生活経済のリスク、家族のリスク、インターネット上のリスクなど、具体的なリスクをとりあげます。また、ひとりの人間の時間の継続性に目配りをし、ライフサイクルとリスクについても検討します。

リスクや安全・安心についての考え方は地域や国、また立場によって異なってきます。そこで、わが国におけるリスクをめぐる文化や、生活者と専門家とのリスク分析・評価の違いを整理し、リスクコミュニケーションについても考えます。安全目標の共有や相互扶助体系への参画などを含めて、リスクに強い生活の構築に向けての

課題を展望しましょう。

この科目がみなさんにとっての生活の安全・安心を得ることと、また生活のゆたかさを実現することの手がかりとなればと思います。



身近な統計（'07）

自然の理解 教授 熊原 啓作

東洋大学 教授 渡辺 美智子
(放送大学客員教授)

世の中には数字のデータが溢れています。それらは一定の集められ方をし、一定の処理をされるとき、統計データといえます。それらはそれぞれの目的を持って作られ解析されますが、私たちが気づかなくても私たちの生活や暮らしに大きな関わりを持ったものが少なくありません。単に大きい小さい、高い安い、関係がありそうなさそうといった印象で物事を判断するのではなく、確かな根拠にたって議論し行動に移す必要性から統計が使われます。この講義ではその統計の初歩から始めて統計とはどのようなものか、またデータをどのようにとりまとめるのか、データから情報をどのように読み取るかを分かり易く解説しています。

毎回の講義の中に「統計と社会との接点」というコーナーを設け、社会の様々な場面で活用される統計を、それぞれの現場のスペシャリストに語ってもらいました。その中で、野球やサッカーのスポーツデータ、テレビの視聴率、選挙の開票結果予測、国勢調査、健康保険の電子化レセプトデータ、薬品開発、生産工場の品質管理、種々のにおいの判定、天気予報、電車のつり広告の効果など実に多様な話題を取り上げ、統計がいかに広く活用されているかが分かるように工夫しています。

また、表計算ソフト

トを用いて実際の統計処理が試みられるよう簡単な解説をし、付録としてデータを入れたCDをつけております。

この講義によって、一人でも多くの方が統計の重要性と正しい統計の方法を学ばれることを心から期待します。



熊原 啓作 教授



渡辺 美智子 教授

かしこくなる患者学('07)

文京学院大学 客員教授 高柳 和江
(放送大学客員教授)

さいたま市立病院 総合心療科 部長 仙波 純一
(放送大学客員教授)

平成15年に今回と同じ高柳先生を主任講師をお願いして、「患者からみた医療」を開講しました。今回の「かしこくなる患者学」はその科目を履修されている学生さんたちから、たくさんいただいた激励のお手紙や質問票をもとに制作しました。「患者からみた医療」の姉妹版となる科目です。例によって高柳先生が基本的な流れを作られ、わたしが一部分をお助けするという構成を取りました。高柳先生はお弟子さんになる日本医大の学生さんをスタジオに呼ばれ、学生さんに愉快地話しかけるといふ授業スタイルを取っています。ですから、放送授業はとて聞きやすく、すぐに高柳ワールドに引き込まれていくことでしょう。しかし、医療の問題は実は大変複雑

です。どこの国でもどの時代でも、完全にうまくいっている医療というのはありません。いや、こういういい方はよくないでしょう。医療の目標はみんなが今の時点で考え、よりよい方向を見だしていくものなのです。そのときに、中心になるのは医療を受ける側の「患者」です。ですから、患者もいろいろな知識を持ち、積極的に病気と向き合わなければなりません。そのためには力がいります。知識の力です。この授業ではこの力を得た患者が自分の頭で医療を考えることを目指しています。ところで、笑いの絶え

ない高柳先生の講義ですが、実は私も笑い声だけで参加している回があります。番組の最後に種明かしをしていますが、皆さんどの回か当ててみてください。そのためには、まずこの授業を履修しなければなりませんね。



高柳 和江 教授



仙波 純一 教授

12

変動する社会と暮らし('07)

生活と福祉 教授 藤原 康晴

生活と福祉 教授 中谷 延二

消費者を取りまく社会は、科学や通信技術の進歩、少子高齢化、省資源・省エネルギー化などによって大きく変動しています。こうした社会のもとに暮らす私たちの暮らしの各分野、食物、生活用品、住まい、契約・取引、貯蓄と投資、働き方、健康、保健・福祉は、その変動の波にさらされており、法制度などの面から社会的支援がなされています。しかし、これまでと比較してその社会的支援の比重が小さくなり、自己責任に基づいて生活設計する、つまり自立した消費者であることが求められています。

その場合、私たち消費者はどのような知識を身につけ、どのように行動すればよいのでしょうか。この科目では、急激に変動している社会の諸事象が、暮らしの各分

野にどのように影響しているか、まず、その実態を把握し、次に自己責任に基づいて私たち一人ひとりが取り組む内容を具体的に考えます。

この自己責任は、日々の暮らしで消費するエネルギーにも及びます。暮らしで消費するエネルギーの削減が消費者に投げかけられている大きな課題です。地球温暖化防止のため、京都議定書では温室効果ガスの排出量を1990年度比でわが国は6%削減しなければなりません。2005年度の排出量は逆に8%も増加しています。特に、家庭部門からの排出量が著しく増加している現状にあ

り、省エネルギーを指向したライフスタイルへの変容が迫られています。

自己責任は自分自身の生活設計だけでなく、地球の環境設計にも及んでおり、この科目の学習が、私たちの暮らしをあらためて考える契機になることを願っています。



藤原 康晴 教授



中谷 延二 教授

乳幼児・児童の心理臨床（'07）

発達と教育 教授 滝口 俊子

心理臨床は、胎児期から死を迎えるまでの人間の一生に関わっています。ライフサイクルのどの時期にも重要な課題がありますが、今回は、人生の基盤である乳幼児・児童期を取り上げました。今後、青春期、中年期、老年期の心理臨床についても紹介できることを願っています。

「乳幼児・児童の心理臨床」において中心的な臨床心理士に、各回を担当していただきました。講師たちの指導者の河合隼雄先生にも、文化庁長官室において収録させていただきました。その3ヶ月後、河合先生は突然、脳梗塞を発症されました。ご多用の公務の合

間を縫って語ってくださったテーマは「たましいのはたらき」でした。心理臨床は、人間の身体と心をつなぐ「たましい」にも注目しています。

各回のテーマを分かりやすく解説し、そしてクライアントに役立つために、それぞれの講師が工夫しました。また、心理臨床という複雑な世界を紹介するために、ディレクターの三橋貞子さん・塚谷理恵さん初め収録隊の皆さん、編集の緒方希さんが、温かく応援してくださいました。

学生の皆さんが、この科目の学習を通して、自己理解・他者理解を深められることを期待していま

す。なお、職業として心理臨床に携わるためには、大学院に進学し、厳しい訓練を乗り越えることが不可欠です。心理臨床とは、いのちに関与する仕事だからです。



NPOマネジメント（'07）

産業と技術 教授 河合 明宣
産業と技術 准教授 齋藤 正章

法人格の有無に関わらず「非営利で公益的」活動を担う多くの団体が各々連携を取りながら今日の社会に働きかけている。それゆえ、この科目では、NPO（特定非営利活動促進）法に基づいて設立された団体のみでなく、「非営利で公益的」な活動を行うボランティアや任意団体を含めた広義のNPOを扱う。

主任講師の一人である齋藤は、NPO法人の組織運営、会計・税務、経営、NPO支援のインフラ整備、経営改革のために必要な業績評価や情報公開などの制度的枠組みについて総括的に説明する。まずNPOの制度についての理解を深めて欲しい。

河合は、活動分野ではまちづくりの推進、福祉の増進、環境の保全、国際協力に携わるNPO法人、また公益法人や法人格を持たない任意団体を取り上げる。放送教材ではNPOを立ち上げ、活動を続けている役員にNPOの設立、組織運営、資金調達などについてインタビューを行った。放送大学大学院修士課程修了者数人にインタビューをお願いした。2002年に修士課程第一期生が入学し、2006年度までに1600余人が修了している。学部を含め放

送大学の学習を通して、多くの学生がNPOやボランティア活動への関心を深めている。この科目からNPOの理解を深めると同時に放送大学カリキュラムを通じた社会的貢献のあり方を学んで欲しい。



河合 明宣 教授



齋藤 正章 准教授

文化政策の展開（'07）

「文化政策学」という分野の研究が本格化したのは、ようやく今世紀に入ってからのことです。これは、生活の質の向上を願う人々の欲求が文化への志向に凝縮し、国・自治体の政策運営において、“文化”がその中核理念となってきたことを背景としています。

また、文化政策は、文化財の保護など一部に規制行政として現れる場面もありますが、大半は、サービスの供給すなわち給付行政としての性格が強い領域です。このこともあって、政策主体による各種の施策の展開に加え、今日では民間のメセナ活動などもこれに深くかかわり、いわば公・私の協同

による総合的なマネジメントとしての性格を持ちつつあります。

この科目は、日本の文化政策全般を視野に入れ、「文化政策学」の“学”としての体系を把握すること、文化政策の意義、一般的な構造などの基本的な事項を理解すること、「芸術文化の振興」、「地域文化の振興」および「文化財の保護」について、それぞれの意義、その枠組みと現状の把握および今後のあり方を考察すること、以上を総括し、これからの文化政策の新たな方向性を探ること、をねらいとしています。

文化政策は、21世紀における重要な政策領域になってきました。

東京芸術大学 教授 根木 昭
(放送大学客員教授)

この科目を通じ、学生諸君がこの分野に関心を持ち、研究を開始する足がかりとしていただければありがたいと思います。



学校臨床社会学（'07）

不登校やいじめ、学力低下、進路未定者など、学校教育や児童生徒に関して様々な問題が指摘されています。学校というシステム自体が揺らいでいるとの声もあります。しかし、実際に学校現場で日々指導にあたられている先生方からすれば、問題の深刻さをいくらか指摘されても、目の前の子どもの指導には役立たないという気持ち募ることと思います。

研究と実践の関係を巡る困難な問題がここにあります。学校教育の危機や揺らぎの中で、研究は実践に対してどのような貢献をなしうるのでしょうか。

ただし、研究は実践に役立つための営みでもありません。研究とは問題の本質を分析し理解す

ることを課題としていますし、そうした努力はより根本的な対応策を講じる上でも不可欠な営みです。

教育学は、いまこうした困難に直面しています。そして、この困難の打開策を語る際にしばしば登場するのが、「臨床」という言葉です。「学校臨床社会学」という科目は、このような流れの中で、社会学的な観点や方法論を踏まえつつ、各研究者が様々な問題とどう対峙しようとしているのかをまとめたものです。

講義では、不登校や学校不適応、少年非行、情報化の影響などの問題を取り上げるとともに、支援のための取り組みや保健室や養護教諭の役割などにも光を当てます。

お茶の水女子大学 教授 酒井 朗
(放送大学客員教授)

また、ニューカマーの子どもの教育や、教育とジェンダーをめぐる今日の問題、さらに教師のバーンアウトや総合的な学習の時間などのカリキュラムの問題など、学校教育をめぐる様々な問題について検討します。



学習センターだより

埼玉学習センター

多くの方々にこのすばらしいセンターを

南関東学習センターのグループに位置づけられている当センターの所在地は埼玉県交通要所JR大宮駅に隣接し、雨の日でもほとんど濡れずに、電車を降りて徒歩5分の至便なところにあります。大宮駅は東京都内の上野、池袋、新宿からもおよそ30分の乗車でくることができ、埼玉県在住の方はもとより都内の方々にも都合の良い勉学の場所として利用されています。

当センターには講義室5室、コンピュータ実習室と演習室、生物・化学、物理・工学の実験室があり、さらに、多目的ホールなどがあります。これらは面接授業や単位認定試験等に使用されるのみならず、学生のサークル活動に日々利用されています。

南関東学習センターの面接授業のカリキュラムは他の学習センターと比較して地域色がありませんが、夏と冬の集中型面接授業には当センター独自の企画を立てています。また、公開講座もできるだけ地域の特徴を出すよう心がけています。昨年度は埼玉県羽生市に生息する天然記念物ムジナモを取りあげ、「ムジナモと地球環

埼玉学習センター所長 毛利 信男

境」をテーマとしました。また、長年にわたって活発に活動しているサークルとの共催による公開講座も実現しました。さらには、センターから遠くにお住まいの方々との交流を目的に、同窓会との共催で“出前講演会”も行いました。この5月1日には秩父市に県内初の再視聴室も誕生します。

このすばらしい環境にある埼玉学習センターができるだけ多くの方々の生涯学習の場として利用し続けられるよう教職員一同微力を注いでいます。



山形学習センター

藤沢周平のゆかりの地にて

山形学習センターは、JR山形駅西口に隣接する霞城（かじょう）セントラルビルの10階にあります。現在所属する学生数は630人、講義室は1室のみという小ぶりのセンターですが、客員教員による「ドイツ語入門教室 初級・中級」および所長による「英語再入門教室 初級・中級・上級」を通年開講し、一般市民にも公開するなど外国語の「課外教室」を実施しているのが小さな特色のひとつです。

さて藤沢周平であります。ご存知のように、藤沢周平は「蝉しぐれ」や「たそがれ清兵衛」など、郷里の山形県庄内地方（小説中では海坂藩）を舞台とした小説をいくつも書いた作家です。2年前に、山形学習センター開設10周年を記念して、公開講演会「藤沢周平の山形」を、明海大学教授山本陽史先生を講師に迎え開催しましたところ180人（本学学生90人、一般市民90人）の方々も参集されました。講演の中で山本先生は、「すべての日本人の郷愁を呼び起こす藤沢文学の魅力の根源」を見事に解き明かして見せて

山形学習センター所長 奥山 克郎

くれました。藤沢文学の魅力語る先生の名調子に、聴衆は酔いしれたといつてよいでしょう。

藤沢文学についてもっと聞きたいという学生の皆さんのアンコールに応え、山形学習センターは、本年9月1日（土）に、再び山本先生による公開講演会「藤沢周平 望郷の文学」を開催します。全国の皆様のご参加をお待ちしております。お問い合わせと参加申し込みは当事務室（023 - 646 - 8836）まで。





私の専門分野は、理論物理学です。昔は素粒子もやりましたが、今は主に絶対零度近くの低温での超伝導、超流動などに興味を持っています。これらは、通常は電子・原子などのミクロの世界を支配する量子の特性が、目に見える大きさの世界にも出現する現象で、日常見られ

物理を楽しむ

自然の理解 教授 生井澤 寛
総合文化プログラム環境情報科学群

ない色々奇妙なことが現れるので面白いのです。この3月に参加した物理学会でも、まだまだ面白いことがあることを再確認できました。

とくにナノメートル（10億分の1メートル、nanometer:10⁻⁹）というごく小さい尺度の世界の物理が、これから、応用まで含めて面白そうです。すでに食品・飲料や薬品・化粧品・洗剤等でナノテクノロジーを用いた製品が目につくようになってきました。これからは、化学、生物学、工学など他の分野とも協

力してナノの世界がぐんと広がると思います。物理は、その中で、理論や基本的なところで指導的な役割を果たすことでしょう。私が興味を持っている他の分野である複雑システムや環境の物理的側面にもナノの世界が関係しそうなので、楽しみます。

物理というと、若い世代について言われる科学離れの傾向の中で、最も敬遠される分野ですが、まだまだ未知の事柄が多くて、これからも面白そうですよ。



日本の国際化が叫ばれて久しいが、ここ数年、特に多様化が進んでいる。それに対応して、日本語教育でも扱う分野が飛躍的に広がっている。日本語という言語の問題だけではない、学際的な分野への広がりである。その多様化を反映してか、大学院生の論文テーマも多彩になっている。

日本の国際化時代に向けて

人間の探究 教授 姫野 昌子
総合文化プログラム文化情報科学群

日本語の文法論、語彙論、語用論、外国語との対照研究に加えて異文化理解教育、外国人留学生・児童生徒・配偶者・研究者等の異文化適応問題、地域ボランティアの在り方、戦前・戦中の対外的日本語普及政策まで幅広いテーマとなっている。特筆すべきは、外国との交流を通して日本人はいかに変容すべきかという内省的な視点が基本にあることである。

各地で活躍している社会人の大学院生や修了生との交流も楽しいし、面接授業を通して学部生と意見交換ができるのも楽し

みである。授業の中で出た要望から日本語の文法研究会も誕生した。外部の方々も参加して時折、研究会を開いている。外国語としての日本語を考える楽しいひとときである。

日本語教材は十分出版されているが、上級学習者用の辞書が足りない。それで、先ごろ「日本語活用辞典」を出版した。現在は英語話者用の「漢字字典」を執筆中である。今後とも種々の辞書を作り、日本語の普及に尽くせたらと願っている。

学習センターの移転について

福井学習センターの新しい学舎紹介

福井学習センター所長 中村 圭佐

福井学習センターは、本年4月からJR福井駅東口の新ビル「AOSSA（アオッサ）」7Fに移転しました。アオッサは福井弁で「会おうヨ！」の意味です。本年は、当センターの開設10周年に当たりますが、10年間の歴史を刻んだ旧センターは、福井城趾・中央公園に隣接した環境にあり、多くの学生が学び、そして巣立っていきました。

新しいセンターの住処「AOSSA」は、JR及び「えちぜん鉄道」の福井駅に文字通り隣接しています。ビル内の1～3階は商業スペースですが、4～6階には、福井市の図書館・公民館・研修室が、7階には、当センターの他に、県民活動センター等県関連3施設が入居し、8階は県民ホールと、旧センターとは異なる意味で学習環境に恵まれました。

新センター全体の面積は、旧センターとほぼ同じで相変わらず手狭です。その上「学生中心」を念頭に各室を構成しましたので、講義室1・2と図書・視聴学習室は広くなり、窓から霊峰白山を望みます。

事務室・所長室、資料室等は狭くなりました。備品類は、従来のを活用していますが、視聴覚機器類やインターネット関連は、かなり整備できたと思います。生涯学習の拠点としての新たな10年に向かっての船出です。



福井学習センター 〒910-0858 福井市手寄1丁目4-1(AOSSA7階) 0776-22-6361(変更なし)

長崎学習センターの新学舎紹介

長崎学習センター所長 浦 晟

長崎学習センターは、平成16年3月に長崎市の郊外から長崎大学の文教キャンパスにある総合教育研究棟に移転して、この新しい機能的な施設を長崎大学からお借りして運営して参りましたが、このほど長崎大学との合築により新しい建物が完成し、5月8日からオープンの運びとなりました。場所は長崎大学附属図書館の南側です。鉄筋コンクリート造り4階建てで、1階・2階は長崎大学用施設で、1階がピロティ、2階が長崎大学附属図書館視聴覚学習室。3階と4階が長崎学習センター用施設です。センターの延べ床面積は1093平方メートルで、3階には視聴学習・図書室（視聴ブース50席）、リフレッシュルーム（インターネット用情報コンセント設置）、学生相談室・保健室、所長・事務室、4階には第1講義室（30席）、第2講義室（60席）、実習室（24席）が配置され、第1と第2の講義室を合併すると90席の大講義室になります。この階にはまた、客員教員室、多目的室（会議室）、教材準備室も設置されています。

どの部屋も目的に応じて最新の設備が整備されており、学生の皆さんが快適に勉強できて、学生相互間の交流がこれまで以上に円滑に図れる様に勉学環境が整えられています。講義室も中小の二つが設け

られたため、面接授業や、客員教員による定期的なセミナーの効率的かつ弾力的な開催が可能となり、センターの学習環境が一段と機能アップしたことになります。今後は、長崎大学キャンパス内という好立地条件を活かして長崎県内における生涯教育の拠点の役割を果たしていくことをめざしたいと思います。



長崎学習センター 〒852-8521 長崎市文教町1-14(長崎大学文教キャンパス内) 095-813-1317(変更なし)

「第17回高知出版学術賞」受賞

- 本学印刷教材「神経心理学('06)」 -

本学の印刷教材「神経心理学('06)」(八木 文雄 放送大学客員教授、高知大学医学部教授 著)が「第17回高知出版学術賞」を受賞しました。

高知出版学術賞は、高知県内に在住する者の学術的著述、または他県在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述を対象とし、当該年度における最も優れた学術出版を、財団法人高知市文化振興事業団が顕彰するもので、平成2年に創設されました。今回は、昨年一年間に出版された21点の中から、選考されました。

本書は審査委員会から『個々の機能について、その働きを単に教示するのではなく、具体的な事例や実験結果から、それら結論を導くという手法がとられていて、極めて科学的、啓蒙的な著作。最近急速に進歩したこの分野を網羅的に纏めてある密度の高い著述。読者は、本書により、社会や人生の問題について考える上で、多くの示唆を得ることができる。質・量共に、最高レベルの著書で、長く将来にわたって利用される図書。』との評価をいただきました。



図書館ホームページがリニューアル

附属図書館のホームページが新しくなりました。

<http://lib.u-air.ac.jp/index.html>

皆さんに分かりやすく、使いやすいページとなるよう、デザインを一新しました。

全国各地の放送大学学生の皆さんが学習する時に、役立つ情報をいろいろと紹介しています。自宅からの参考文献調査や論文入手などにご活用ください。

なお、トップページの画像は、千葉市の本部図書館のカウンター前吹き抜け部分です。落ち着いた雰囲気図書館ですので、近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



放送大学セミナーハウスの使用について

放送大学セミナーハウスの使用については、平成19年7月1日より次のとおりの取扱いとなります。

1. 宿泊料金等について

使用料：1,500円

これまで使用目的により異なっていた宿泊料金については、使用料、運営費の区分がなくなり、使用料のみとなります。

また、宿泊日の1日前(土日・休日を除く)の午後5時までに学生サービス課学生係までキャンセルの申し出をされた場合は、使用料の半額を返金します。

浴衣の貸与を廃止します。

2. 申込み期間について(研修室及び宿泊室)

使用目的により申込み開始の時期が、次のとおりとなります。

放送大学及び放送大学学園が行う研修、演習又は実習等、及び放送大学公認の学生団体が行う課外活動の場合・・・使用日の6ヶ月前

上記以外の目的の場合・・・使用日の3ヶ月前

教務からのお知らせ

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）

- 郵便局を利用して発行手数料の支払いができるようになりました -

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）の発行手数料の支払方法について、これまで「銀行振込のみ」の取り扱いとしておりましたが、この度、郵便局を利用した支払いができるようになりましたので、お知らせいたします。

新たに利用できることになったのは、次の2つの方法です。

1. 郵便定額小為替
2. 現金書留

なお、引き続き、銀行振込による支払いもできますので、ご利用ください。

詳細は、

放送大学ホームページ（「学習方法・案内」「科目群履修認証制度」「申請手続方法」）
キャンパスネットワーク（「科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）」）
学習センターの掲示物

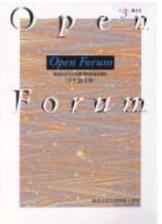
をご覧ください

Open Forum（大学院教育研究成果報告）第3号について

このたびOpen Forum第3号（大学院修士課程平成17年度修了生）を発行しました。修士課程の研究成果に興味のある方は、各学習センターにて閲覧できますのでご覧ください。

また、ご希望の方には、各学習センター（本部は郵送のみ）にて、通常価格900円（本学学生価格720円）で有償配布を行っています。

詳しくは本部・各学習センターにお問い合わせください。なお、当学園のホームページにも掲載されています。



19

第1学期面接授業（集中型）科目の追加登録

8月に行われる第1学期面接授業（集中型）について、空席がある科目は追加登録をすることができます。登録日程等下記をご確認いただき、どうぞこの機会に面接授業にご参加ください。

空席発表日：平成19年7月7日（土）

登録受付期間：平成19年7月14日（土）～7月19日（木）

空席のある全てのクラスが登録受付対象となります。

空席状況（追加登録の対象となる科目）は、空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ（<https://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/>）でお知らせします。受講したい科目をご確認の上、登録受付期間内に、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースの窓口に、学生証・授業料を持参のうえお越しください。

なお、一部の学習センター等では郵送による申請を受け付けます。「面接授業時間割表」等で郵送の取扱有無を確認のうえ、郵送申請の前に各学習センター等にお問い合わせください。

面接授業の追加登録では、インターネット科目登録申請をご利用いただくことはできません。ご注意ください。

教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生募集

平成19年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成19年6月15日(金)...	平成19年度第2学期学生募集要項配布開始
出願期間	平成19年6月15日(金)～平成19年8月15日(水)
可否通知等	平成19年8月上旬～平成19年9月上旬
学費の納入	平成19年8月上旬～平成19年9月末
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成19年8月上旬～平成19年9月末
授業開始	平成19年10月1日(月)

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介ください、入学をお薦めいただくようお願い申し上げます。
- また、平成19年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成19年度第2学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。
- ・出願締切日は平成19年8月15日(水) 必着 です。

大学院文化科学研究科修士全科生募集

放送大学大学院文化科学研究科では、平成20年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成20年度修士全科生学生募集要項配布開始...	平成19年6月15日(金)
出願期間	平成19年8月25日(土)～平成19年9月14日(金) 18:00(必着)
第一次選考(書類審査)	平成19年9月下旬～平成19年10月上旬
第一次選考(書類審査)可否通知	平成19年10月12日(金)発送
第二次選考(小論文試験)	平成19年10月28日(日)
第二次選考(面接試験)	平成19年11月17日(土)～平成19年11月18日(日)
可否通知等	平成19年12月14日(金)発送
学費の納入	平成20年3月上旬～平成20年3月中旬
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成20年3月中旬～平成20年3月下旬
平成20年度授業開始	平成20年4月1日(火)

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
 - ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方が出願できます。
 - ・募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、入学できます。
 - ・修士選科生・修士科目生として修得した単位は、その後本学大学院に修士全科生として入学した場合、原則として大学院の修了要件として認められます。
- 本学が行う出願資格事前審査で認められることが必要です。申請期間は、平成19年8月1日(水)～8月10日(金)です。詳細は募集要項をご覧ください。

平成19年度第2学期科目登録申請について

次学期も引き続き学籍のある在学生を対象に「平成19年度第2学期科目登録申請要項」を7月上旬に送付します。

平成19年度第2学期の放送授業及び面接授業(毎週型・土日型)の科目登録申請期間は次のとおりです。

申請期間

郵送の場合

平成19年7月26日(木)《消印》から8月9日(木)《必着》

インターネットの場合

平成19年7月26日(木)午前9時から8月9日(木)午後6時

(注意)

- (1) 7月下旬になっても科目登録申請要項が届かない場合や紛失した場合は、大学本部もしくは各学習センターにお問い合わせください。詳しくは「学生生活の葉」をご覧ください。
- (2) 今回からインターネットからも科目登録が出来るようになりました。詳細は、キャンパスネットワーク又は科目登録申請要項をご覧ください。
- (3) 入学(出願)手続きとは申請期間が異なりますのでご注意ください。

大学通信専門委員会(平成19年度)

委員長	教授	柏倉康夫	委員	教授	星元紀	委員	准教授	島内裕子
副委員長	"	滝口俊子	"	准教授	坂井素思	(編集事務担当)		
委員	"	松村祥子	"	"	齋藤正章	教務部学生サービス課)		

編集後記

先日の卒業式の祝辞として文部科学副大臣が引用されたS.ウルマンの「青春の詩」。父が好んでいる詩が突然晴れ舞台に出て来て驚いたが、この詩がマッカーサー元帥の座右の銘であったことを知り更に驚いた。

一度述べられた言葉は様々な形で後の人々に伝わり、利用されていく。言葉に負って伝えられていく知識も同様である。その流れの一端を担うことができる場として放送大学が果たす役割は、これからも非常に大きいだろうと思う。

過去12号分の編集委員長だった杉本教授が退かれるのを始め、何人かの編集委員が交代する。今までどうも有難うございました。

読者の方々におかれましては、これからもon airをよろしく願い致します。(前委員 大橋理枝)

(新委員長から)

今年の5月、放送大学附属図書館長に就任いたしました。85号で前館長の杉本先生もお書きになっていましたが、on airは毎号10万部という大量な部数を印刷して、皆様のお手元にお届けしています。この貴重な印刷物を、皆様が学習を進める上で、さらに役に立つものとするべく努めていきたいと考えています。そのために、読者である学生の皆さんの立場に立って、いまどのような情報が必要かを見定めて、編集にあたるつもりです。

通信制の大学である放送大学では、ともすると学生と教員、あるいは学生同士の絆が細くなりがちです。インターネットの活用など、それを補う方途を模索していますが、このon airもその一翼を担う覚悟です。ご意見をどしどしお寄せください。

(柏倉康夫 専門委員長)



放送大学

http://www.u-air.ac.jp/

ISSN 1343-3369